



ごあいさつ

著者	紅林 秀治
雑誌名	研究紀要：希望の未来を拓く資質・能力の育成（2年次）
巻	平成29年度
ページ	1-1
発行年	2017-10-06
出版者	静岡大学教育学部附属浜松中学校
URL	http://doi.org/10.14945/00010384

ごあいさつ

学校教育には、児童・生徒の成長を考え、実に様々な指導が求められています。そのため、多くの教員は、指導力向上のために悩み苦しみながらも日夜研鑽に努めています。求められている指導の中でも、その中核となるのは日々の授業であります。なぜなら、世界の情勢や法律が変わることで、学びを取り巻く環境が大きく変化したとしても、授業が学校生活の大半を占めることに変わりはないと考えるからです。それゆえ、学校教育全体をとらえた上での教科指導が、教育実践研究の重要なテーマになるのだと思います。

本年度研究は学校全体のカリキュラムをとらえた上での教科指導を中心にしたものです。研究主題の副題に『学習のくくり』を通した本質的な問いの最適解に迫る学習構想の提案』を掲げ、教科の学習を通して知識や技能を身につけるだけでなく、生徒一人ひとりが本質的な問いの最適解に向かう中で、資質・能力の育成を図るための枠組みを学習構想としてまとめました。

最適解は主に、「ものづくり」や「設計」の中で用いられる言葉です。最適解は、要求に対して制約条件下で出すことができる解であり、一般に言う正解とは意味が異なります。それは、最適解とは、制約条件が変わればその内容も必然的に変わるものであり、また、その内容も一つであるとは限らないという特徴があるからです。本質的な問いを学校全体のカリキュラムや教科カリキュラムにおいてどのようにとらえ、主体的・対話的で深い学びを通して、最適解を見いださせる学習をいかに構想するのか、本校の授業を参観いただき、注目していただければと思います。併せて、本校が提案する学習構想についても数多くの御意見をいただければ幸いです。

現在、国立大学附属学校を巡る状況は非常に厳しいものがあります。附属校としての役割や特徴を明確化することや、地域への貢献を目に見える形で示すことが求められるだけでなく、附属学校の存続そのものも問われています。そのような中で本校は、浜松市と協力し、2年目教員の研修や5年目教員の研修の一端を担ってきました。また、近隣の公立学校において、研究協力委員の先生方による研究授業を行い、本校の研究内容を他校でも実践することを続けてきました。今後もこれらの活動を続け、地域に貢献できる附属学校でありたいと考えています。

本校の研究活動につきましては、教育委員会、校長会、公立学校、地域、大学等の多くの方々から御尽力を賜りました。この場を借りてお礼を申し上げますとともに、今後とも一層の御助力、御助言をいただけますようお願い申し上げます。

平成29年10月

静岡大学教育学部附属浜松中学校 校長 紅林 秀治